

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度 第2回キャリア教育推進委員会		
事務局 (担当課)	学校教育課 電話042-769-8284 (直通)		
開催日時	令和7年1月24日(金) 10:00~12:00		
開催場所	ウェルネスさがみはら 7階 視聴覚室		
出席者	委員	20人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	10人 学校教育課 5人 教育センター 5人	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
議題	1 確認事項 (1) 本市のキャリア教育について (2) 令和6年度キャリア教育について (3) 令和7年度の方向性について  2 協議 「本市のキャリア教育に期待することと未来を切り拓く力を育むためにできること」		

# 議 事 の 要 旨

[議事内容、質問及び主な意見] ●委員 ○事務局 □司会

## 1 開会

### (1) 学校教育部長あいさつ

今回の推進委員会は、今年度2回目の開催となる。本市では、第2次相模原市教育振興計画において、「共に認め合い、現在と未来を創る人」を目指す人間像とし、キャリア教育を推進し、「未来を切り拓く力の育成」を図っている。今回は、令和6年度を取組を報告させていただくと共に、令和7年度の方向性について報告をさせていただくことになっている。

後半には、協議を予定している。今年度を取組と次年度の方向性について、ご意見等を伺いたい。特に、子どもたちに必要な「未来を切り拓く力の育成」についてご意見を伺いたい。

キャリア教育という言葉聞いて、子どもたちはもちろんだが、大人もワクワクするような取組にしていきたい。より良い取組となるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい。

また、藤田教授、原教授には、まとめのところでご示唆いただきたいと思っている。

## 2 確認事項

### (1) 本市のキャリア教育について

### (2) 令和6年度キャリア教育について

### (3) 令和7年度の方向性について

○資料について事務局から説明

□農上委員 事務局からの説明について、質問・意見を伺いたい。

[質問・意見等]

●中村委員 保護者の代表という立場でお礼を伝えたい。子どもたちのために、継続的にキャリア教育を推進していただいていることに感謝している。引き続き、次年度以降もよろしく願いしたい。

## 3 協 議

□農上委員 本日の協議題は、「『未来を切り拓く力』とは～学校、地域、関係者が共に育むために～」となっている。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、市全体で、キャリア教育について考え、子どもたちの未来を切り拓く力につながる協議になればと思う。

委員のそれぞれの所属から見て、未来を切り拓くために必要な力についてどのように感じているか伺いたい。

それを受けて、課題や各課・各機関で解決できそうな提案等あれば、お示しいただきたい。

事務局からの提案にあった、子どもたちや保護者に向けて校長としてどのように発信しているのか、清水委員に伺いたい。

●清水委員 毎月「学校だより」を発行し、キャリア教育に関わることを掲載するようにしている。例えば、配付されている資料に、公認会計士やキャリア・コンサルタント等を招き、将来についての講話をした際の記事がある。印象に残っているのは、その方の「中学校時代に色々チャレンジした方がよい」という話である。なぜそうなのかについて考えると、やはりキャリア教育で示されている「4つの力」に繋がる。その「4つの力」を身に付けていくことの意味や、具体的にどのように身に付けていくかを、始業式で、本校の子どもたちと教員を対象に話をした。最終的なねらいは、「なぜ学ぶのか」という「学ぶ意義」が大切で、毎日学校で行っていることにはすべて意義があることを伝えた。今後の学校経営に、具体的なものを入れていきたい。

その話を受けて、新入生向けの保護者説明会で、ある職員が「4つの力」について保護者向けに自分の言葉で話をしてくれた。校内で理解が広がっている。

今後も、授業や学校教育の日常の中に、キャリア教育の視点を入れていながら、「何を目

的にするのか」ということを意識していくことが重要であり、そうすることでキャリア教育が進んでいく。

【参考資料⑤—4】については、前回の原委員からいただいた「フィードフォワード」について、校長会において共有させていただいたものである。【参考資料⑥】については、市P連との連携した会に関する記事である。素晴らしい取組であるので、今後も続けていくとよいと思う。

□農上委員 「学校だより」での発信という点で、松尾委員からもお話を伺いたい。

●松尾委員 【参考資料④—1】について、学校では、様々な場面において「4つの力」を身に付けることができるように、子どもたちが活動している。それに向けて、教職員も取り組んでいる。学校にいと、社会が変化していく、ということが見えづらい。特に「見通す力」を意識することが大切だと考えた。

そこで、外部の人材を活用した方がよいだろうと考え、子どもたちと教職員、保護者を対象にして、文部科学省の岩岡学校教育官を招いて講演会を開催した。変化の激しい時代にあつて、学校で学ぶことがこれだけ大切なのだ、ということをお話いただいた。子どもたちもその内容に衝撃を受けたようで、講演会後の岩岡氏と生徒との座談会で、学ぶことの意義について実感した子どもたちの様子があり、嬉しく思った。さらに、デジタル化・機械化がより進んでいく将来は、自分の得意なことや個性を伸ばしていくことが大切だという話があった。子どもたちも理解を示し、「これでよいのだ」という思いをもったようであった。教職員についても、この講演会後に、自分たちの教育活動を見直そうという姿があった。

【参考資料④—2】については、産業支援・雇用対策課と連携した取組を実施するものである。12月に、「職業体験EXPO 2024 in相模原」というイベントで、中高生を対象に、ものづくりや職業体験をやっていた。本校の子どもたちにも味わってほしいと思い、連絡し、お越しいただくことになった。また、教育委員会がまとめている「さがそうみらいプロジェクトサポーターズリスト」を本校職員に紹介した。9企業・団体が協力してくれることになった。このような取組も「見通す力」の育成につながり、日々の活動に生かせるものだと考える。

□農上委員 「職業体験EXPO 2024 in相模原」に関することが話題に上がりました。担当課からもねらいや、この事業を通してめざしたい子どもたちの姿を伺いたい。

●草薙委員 12月に中高生と地元企業との交流事業として実施した。「望ましい勤労観や職業観を育むこと、地元への愛着をもてるようにし、将来に繋がるように」と思って開催した。当日は10社に協力してもらい、各企業の事業や業界、仕事について学ぶ機会にしたいと考えた。54名が参加し、オンラインでは71名の参加があった。子どもたちにとって、企業活動を知ることが、社会を知ることにつながったと感じる。多くの企業に触れることで、将来的な夢や目標をもつことに繋がり、選択肢が増えればと思う。それが、キャリア教育で育みたい力のうち、「見通す力」の育成に繋がればと考える。今回で2回目だが、実施したアンケートを見ると、参加者のほとんどが満足したという感想をもっており、保護者からも、子どもの社会体験として意義のあるものであると回答している。残念ながら参加者が少ない。次年度は、5・6年生も対象に広げていきたいと考えている。応募について、学校でも周知をしてほしい。

□農上委員 実際の参加状況をお話いただいた。対象を小学生に広げていくという話があったが、小学生を対象にした事業として、本市ではアントレプレナー体験事業がある。千葉委員よりお話を伺いたい。

●千葉委員 創業支援・企業誘致推進課が開催している「子どもアントレプレナー体験事業」については、子どもたちに起業家精神を育むということをねらっている。それだけでなく、「自分で考えて行動する力」や、「失敗を恐れず挑戦する力」の育成にも繋がると考えている。

さがみはら産業創業センターの方々や、大学生、経営者の方々に協力をいただきながら、自分たちで企画をする、販売をするといった一連のプロセスの体験を通して、コミュニケーション

ン力などのキャリア教育でめざす力を育むことができる事業だと考えている。今年は47名の参加があった。最初は、周りとのコミュニケーションをとれなかった子どもたちも、徐々にチームワークが生まれ、「よりよくしよう」と自分たちで考えたり、仲間の意見を尊重するようになったりする大切さに気付いたりし、成長が見られた。

保護者からも、子どもが家に帰ってから、仲間の良さを語ったり、人が相手なので、相手に納得してもらうこと、信用してもらうためには言葉も大切だと実感したりする機会となり、成長を感じることができたのご意見をいただいている。

問題解決能力や「4つの力」を網羅し、実践する場となり、「未来を切り拓く力」を学校以外で体験できる場になったのではないかと思う。

□農上委員 子どもたちが力を身に付けることのできる取組があることを改めて実感した。草薙委員と千葉委員からあったお話について、ご質問やご意見等あれば伺いたい。

●中村委員 改めてではあるが、子どもたちは家庭だけでは育たないということが分かる。こういった事業が大きなきっかけにはなるのではと思う。

参加者が少ないという声があった。小学生が自ら探して事業に参加するのは、難しいのではと感じる。保護者のキャリア教育への理解が大切なのではと感じる。保護者向けのチラシなどを市P連にお届けいただければ周知について協力ができるのではないか。

□農上委員 保護者にキャリア教育について理解してもらうことが大切だのご意見をいただいた。先ほど清水委員からも市P連の代表者会でキャリア教育を取り上げていただき、協議を行ったと話があったが、そのねらいや効果、取組を踏まえた今後について伺いたい。

●中村委員 【参考資料⑥】について、子どもたちのスマホの利用時間が長く、生活習慣に影響が出ていることを課題としてあげ、9月19日に、保護者、学校、教育委員会が集い、パネルディスカッションや協議を実施した。学校と家庭と地域の中で育っていくということを共通認識できた時間であった。自己管理能力を高めていくことが大切であると感じたという声や、キャリア教育という言葉もここで初めて知ったという声もあった。

これに関連して、不登校について、全国的にも市内においても増加している。この解決に向けてキャリア教育が大切だと感じる。一つの要因として、スマホ等の利用により、生活習慣が乱れてしまうことや、学力の低下、人間関係を築くことが苦手になっている現状があることなどを、保護者側が認識しておく必要がある。

学校や地域の力を借りながら子どもを育てていく必要がある。そもそも「未来を切り拓く」というところまでいかない。なるべく早い段階で子どもたちには支援が必要である。そういった意味でも、大きなきっかけとして、先生方と教育委員会と保護者でお話しできたので、次回また、議論をしていけるとよい。「子どもアントレ」や「職場体験」など市内で行っている取組の紹介も含めて、伝え、広げていくことが、相模原の子どもたちを救うことになる。様々な取組に感謝申し上げる。

□農上委員 これに関連して、代表者会の感想や、生活習慣について小学校の実態を佐藤委員からお話を伺いたい。

●佐藤委員 小学校の校長会の代表として、市P連の代表者会に参加した。保護者の生の声を聴くことができ、取組も伝えることができ、貴重だった。その会で感じたのは、保護者にはまだキャリア教育がまだ伝わっていない。校長対象のアンケートでは、「保護者に発信している」という回答が返ってくるが、代表者会に出席している保護者の中にも、「キャリア・パスポート」等について知らない方がいた。今後も、発信を続けていかななくてはと感じた。

【参考資料③】について、校長会の研究会でも、校長としてどのようにリーダーシップを発揮してキャリア教育を進めていけばよいか研究を進めている。今年度の研究の成果を、次年度は新潟で発表することになっている。今年度は、各団体の代表の方をお招きして、小学校の校長会で研修会を行った。本推進委員会についても、学校と各課・関係機関との連携として伝えていくつもりである。

- 農上委員 先ほどスマホなど生活習慣に関する話題が出た。子どもたちが自ら考えて行動できるようになるためにも、消費者教育という視点も大切になる。区政推進課より伺いたい。
- 菊地原委員 消費生活総合センターにおいて「消費生活出前講座」を開設している。今年度は15回実施した。中学生以下でスマホに関連した相談件数が25件あった。一番多いのが、オンラインの課金に関わる相談である。中村委員の話にもあったように、長時間スマホを使用してオンラインゲームの課金をしてしまった、SNSのスタンプを購入してしまった、「おためし定期購入」や誤注文により高額請求があったなど、市内でも実際に起きている。出前講座を通して、生きる上で危険なこと、やってはいけないこと等、早いうちから理解していただき、このようなトラブルや事例があることを知って、消費者としての自覚をもてるように今後も講座の継続していきたい。
- 農上委員 「未来を切り拓く力」の基盤となる力、「自律する力」、例えば情報を取捨選択する、自ら考える、自主性の大切さについて、お話いただいた。原委員については、普段から学生に対して自主性や主体性を重んじて関わっていると思う。小学校、中学校段階でそのような主体性や自らを律する力を育むことについて、原委員より伺いたい。
- 原委員 そもそもなぜ今「キャリア教育」なのか。時代は、正解のない時代に突入している。これまでは、失敗をさせないようなカリキュラムが主体だったのではないかと。しかし、世の中が激動で、「チャレンジ」、「トライ&エラー」の連続で前に進む時代になった。社会をよりよくしていくためには、これからは、「ルールを作る側」にならなければならない。
- 社会は変わっても教育は変わらないと言われる。しかしながら、教育には変わっていい部分と変わってはいけないことがあると思う。キャリア教育でめざす「つながる力」「自律する力」「乗り越える力」「見通す力」については、社会の普遍的な要素だと捉えることができる。自分たちでルールを作る側にまわったり、決められたルールに単に従うだけではなく、よりよくしていく思考というものを身に付けたりしなければならない。根本的には、キャリア教育の「4つの力」を学ぶからこそ、ルールを変え、作る側になっていく発想になってくる。
- 例えば、校則をよりよくしていくためには、どうしたらよいか、あるいは、商品を販売する際、消費者に受け入れてもらうにはどうすればよいか、言葉をどう伝えるか等、様々な力が必要になる。
- そういった意味でも、相模原市は良い取組を続けていると思う。
- 農上委員 これに関連して、清水委員に中学校で実施した生徒会長会議について伺いたい。
- 清水委員 以前赴任していた学校において、生徒会長が標準服に関する校内のルールの見直しを提言し、1年間子どもたちが議論した。「ルール」だけでなく、身だしなみや「マナー」についての意見も子どもたちから出てきた。その中で、生徒会長が、「生徒一人ひとりが自分自身で自己管理能力を高めていかなくてはならない」と発言する場面があり、感動した。今、何でも時代に合わせて変えるという流れがあるが、子どもたちがそれをどう捉えているかが大切であると学んだ。「ルールは自分たちで作る」という原委員の意見と繋がっていると思う。
- 原委員 若者の投票率が減少している。各自治体では、議員の成り手がいないという現状がある。これは、子どもの頃から、「ルールは変わらない、大人たちが決めている」という思考が私たちの中にあるのだと思う。しかし、このような教育をすることによって、社会をよりよくするためには「ルールは作ることができる」という思考になってくる。また、社会に対する課題をもち、より良い社会の実現につながっていくのではと思う。
- 農上委員 ここで、先ほど話題に上がった、キャリア教育について保護者に理解してもらうには、どうすればよいか、藤田委員に伺いたい。

●藤田委員 特別支援教育が言葉として浸透するまで、10年かかった。それだけ時間がかかる。相模原市のステップ表を見ると、フェーズ1は令和3年度のスタートとなっている。令和3年度はコロナ禍が明けて間もない時期で、目の前の対応に追われていた。実際のスタートは令和4年度とみると、まだ始まって3年である。長いスパンで捉えるべきである。

また、長いスパンで見ると、使い続けることが大切。皆で継続して使っていくことで普通の言葉になっていく。学校教育に携わる方々が、学校教育の中で「キャリア教育」や「4つの力」「学校だより」や保護者会で保護者の前で使っていく、子どもたちと共に使っていくことが地味だが大きな力になっていく。

□農上委員 教員の中でのキャリア教育の認識はどうか。実態を伺いたい。

●松尾委員 言葉自体は浸透している。それを日々の教育活動や、授業等で実践しようとしている段階である。また、子どもたちにもそういった力が大切だということは浸透してきている。保護者には、まだ浸透していないので、講演会をもつなどして理解を広げている。

□農上委員 引き続き、ご意見を伺いたい。職業体験について、職場体験の実行委員である布施委員より、この事業で子どもたちにどのような力を身に付けていけるのか、どのような力を身に付けていかなければいけないのかについて伺いたい。

●布施委員 企業にも「キャリア教育」について周知を進めたい。相模原市は、政令市の中でも中小・小規模事業者の率が高い。門戸を開いていただくために、募集の段階で知っていただき、ご協力いただける企業を募っている。経営支援としては、「伴走型支援」を意識して企業の取組を続けている。

箱根駅伝においてここぞというときに選手同士が自ら支え合っている姿があった。原委員のご指導があったことだと思う。子どもに自立心、主体性を育てていくことが大切である。家庭において一番近くで「伴走支援」ができるのは保護者であると考え。いかに時間を作って対話をして、寄り添って支援できるかが大切だ。

□農上委員 市内で多くの取組がある。民間企業から見て、社会的・職業的自立のために必要な力とは何か伺いたい。

●鎌倉委員 コロナ禍、AIの普及等により、仕事のやり方、考え方、進め方の様式が大きく変わってきている。テレワーク、営業活動、会議体、自動化による供給資源などが大きく変化している。今の子どもたちが社会に出る時には、今は存在しない職業が現れ、今とは異なる様式が生まれているだろうと予想できる。そのような時代で求められるのは、多くの経験と経験をもつことはもちろんだが、どのような状況でも「自分で考え、決定し、行動する力」「主体性」が重要になってくると考える。また、「人に伝える力」や「人の話を理解する力」、「コミュニケーション能力」や協調性が重要である。法人会の立場からどう協力できるか、広報誌での周知、協力企業の呼びかけを行っていく。

今後、法人会としては、登録していない業種を増やし、子どもたちがたくさんの業種を体験でき、将来の選択を増やせるよう環境づくりを進めていきたい。

□農上委員 委員の皆様から、社会的・職業的自立のために必要な力に関連してお話いただいた。本市においても、不登校に関する課題がある。そのほか、発達に課題がある児童生徒や障がいのある児童生徒、すべての児童生徒が自立に向けて取り組んでいくために、様々な支援を行っていただいている。「未来を切り拓く力」とはどのようにお考えになっているのか、公共職業安定所の岡本委員にお話を伺いたい。

●岡本委員 11月20日に、産業会館で、「発達に課題のある児童・生徒さんの職業自立のための保護者セミナー」を開催した。今回3回目だが、企画当初は、「切れ目のない支援を行いたい」ということが目的であった。高校卒業後、所属が無くなってしまわないようにしたいと考えている。成長段階に合わせた支援があることについて発信し、ハローワ

ークとしても応援したいと考えた。初年度から反響があり、60名の定員に80名の応募があり、何とか開催したのが第1回目。第2回目以降に副題をつけた。昨年度は「自分で選択する力をつける」にした。今年度は「働き続けるためにどうしたらよいか」を副題にした。今年度は83名の参加があり、中学校の保護者の参加が多かった。自分で選択する力をつけるには、体験する機会が必要であると考え。体験はうまくいかないことがあるかもしれないが、「その経験が大切」だということを伝えていかなければいけないと感じた。

また、「継続する力」が大切であり、「未来を切り拓く力」について考えると、大きく構えず、日常生活で当たり前に行っていることを継続していくことが大切であり、それが「挑戦する力」につながると考える。

大学生は早い時期から就職活動をし、周りが内定をもらう中で、戸惑い、自分を見失ってしまったり、迷ったりする学生が多い。まず立ち止まって、「自分ができていること」を振り返ることが大切だと伝えている。勝手に見立てを決めてしまうよりも、まずは子どもたちの話を聞き取ることが大切にしている。保護者セミナーでもお伝えした。

みなさんの話が素晴らしい。各取組をした後に、子どもたちがどう感じたのか、一緒に考えていきたい。

□農上委員 これに関連して、相模原市社会福祉事業団の村山委員からもお話を伺いたい。

●村山委員 「インクルーシブ」という言葉がよく使われるようになってきた。障害のあるなしに関わらず共に体験する、参加する、経験することが市内でも各所行われている。

学齢期で行われるインクルーシブに関わる体験や経験は社会の基礎になっていくものと考え。自分の意見も大切にしながら、他者も大切にす、他者を尊重する視点や協力と共感する視点が、キャリア教育に関連するものだと感じる。無理のないように自然な形でインクルーシブ教育が進んでいくことが望ましい。

パラスポーツに関する取組も盛んになってきた。先日も富士見小学校でフライングディスクを体験してもらった。「さがみはら“ゆめ”プロジェクト」では、車いすテニス等の体験も行っている。学校と福祉との連携を今後とも進めていきたい。

□農上委員 これに関連して、高齢・障害者福祉課の沼田委員からもお話を伺いたい。

●沼田委員 今年度の新たな取組として、障害のある方の多様な就労ニーズに対応するために、週20時間未満で働けるように事業者働きかけをしている。

「未来を切り拓く力」に関連して、多様性への理解へ繋げるため障害者週間において「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間ポスター」の表彰を実施している。課題としては、応募数が少ない状況があることである。受賞者は市長から表彰もある。学校でも、積極的に周知してほしい。

□農上委員 「子どもの居場所サポート事業」を行っている、こども・若者政策課の馬渡委員から取組やお考えについて伺いたい。

●馬渡委員 市の社会福祉協議会に委託し、「子どもの居場所創設サポート事業」を行っている。子ども食堂や無料学習支援の取組を担っている様々な団体を支援している。学校以外での子どもの居場所として、子ども食堂や無料学習支援が一つの大事な場所になっている。食堂が50数か所、無料学習支援が40弱ある。地域に自分に合った居場所があるとよい。

各取組において、人材不足が課題になっている。今年度は、初めて、学生に向けて、青山学院大学や和泉短期大学で活動のパネル展を開催し、担い手の発掘も行っている。

□農上委員 協議の後半では、職場体験、また、一人ひとりに寄り添った自立支援についてもご意見や取組をご紹介いただいた。ここで、全体を通して改めて、原委員よりご助言をお願いしたい。

●原委員 ここまで5年間やってきた。事務局も委員もそれぞれの発言が堂々としており、こ

れまで積み重ねてきたことに自信をもって発言しているという印象をもっている。

教育においては、変えることと変えてはいけないものがある。ジュニア期にきちんと指導しておくべきことが、道徳教育と重なって、具現化したものが、「4つの力」に落とし込まれていると認識している。その力を育成することがより良い社会の実現に繋がるものだと捉えている。これは、答えがあるようでないような教育であり、正解を見つけることがなかなかできないものだと思う。また、時間がかかるものだと思う。しかし、地道にコツコツと続けていくことが大切である。今後についても、関わっていきたい。

□農上委員 藤田委員については、前半事務局よりあった報告や方向性についてご助言等いただきたい。

●藤田委員 毎回同じことを言っているかもしれないが、相模原の先生は本当に頑張っている。資料を見ると、「自分には良いところがあるか」という質問項目において、令和元年度から9.3%も伸びている。特に中学生の段階で、「自分には良いところがある」と答える状況は、驚きであり、大きな変容である。また、このことに関連して、「先生が子どもを認めてくれている」ということも分かる。全国的にもまず見られない変容である。

今後に向けて、4点申し上げたい。

1つ目は、清水委員からお話があったことである。「学校だより」でキャリア教育について、普通に語られている。原委員も触れていたが、地道な取組の積み重ねが大きな力をもつことを改めて感じた。「見通す力」について、日々の授業や部活動、係活動や清掃活動の重要性が掲載されている。非常に重要だと考える。「学校をより良くしていくことが大切である」という原委員の話や、「主体性が大切である」という鎌倉委員の話があった。自分の学級の課題について自分たちで解決していくというプロセスは、小学校1年生からずっとある。これまでの日本の学校教育の良さについて改めて考え直していく必要がある。

2つ目について、中村委員から不登校についての話があった。文科省の資料によると、平成15年頃までは学校復帰を第一課題としていた。しかし、現在は方向性が変わり、進路の問題になっている。彼らが自立していくためにどのような支援が必要かが大切である。まさにキャリア教育に関することであり、不登校支援の中で、どうキャリア教育を位置付けていくかが大切である。「4つの力」については、家庭と共に力を身に付けていかななくてはならない。また、地域の中で子どもたちが育っていくことを考えていかなければいけない。

3つ目について、岡本委員が継続すること、「できるよ」と認めていくことが重要だということが語られた。改めて職場体験の大切さについて考えていかななくてはならないと思う。いわゆる「大人の普通の世界」を感じる場面を大切にしたい。例えば工場の熱や匂い、または電話が鳴った時に職場の雰囲気が変わる状況等、従業員がチームで課題を解決していく場面を見て、体験することが大変重要である。インターネットが普及し、疑似体験も活用しているが、やはり本物でないといけぬ。岡本委員からあったが、「できるよ」と言葉をかけることも重要である。まさに「キャリア・パスポート」である。大学生になって、小学生から高等学校までの教員が記入してくれたものを振り返ることができたら、とても力が身に付くと思う。

4つ目について、農上委員から「キャリア教育はワクワクする」という話があった。これは素敵なお話である。松尾委員から提供があった岩岡氏の講演に関する話で、「47%の仕事が消えていく」という話があった。鎌倉委員からも「企業の在り方が大きく変わる」という話があった。大きく変わるということについて、「大変である、先は暗い、危機に備えよ」というメッセージだけではいけない。それと同時に、「時代の変化はこれまでもあったから大丈夫だよ」というメッセージを伝えていきたい。事実として、1955年の第一次産業従事者は全体の50%であった。2010年には0.4%になった。あったはずの第一次産業がなくなった。こういった変化を、戦後私たちは経験してきた。かつて私たちの先輩方は「リスクリング」を繰り返して今に繋がっている。「社会は変わるけど、大丈夫、対応できる」というメッセージを合わせて伝えていきたい。

□農上委員 多くの示唆に富むご意見やご助言に感謝申し上げます。皆様からいただいたご意見を踏まえて、事務局で検討を重ね、次年度のキャリア教育の推進に活かしていく。本日の提案につきまして、概ねご賛同いただいた、ということですのでよろしいか。

#### 4 その他

次年度は、第1回を5月下旬、第2回を2月上旬に開催予定である。詳細については改めて連絡させていただく。

#### 5 閉会

## 令和6年度相模原市キャリア教育推進委員名簿

氏名	所属役職等	出欠席
藤田 晃之	筑波大学人間系教授・教育学類長	出席
原 晋	青山学院大学地球社会共生学部 教授	出席
村山 毅	相模原市社会福祉事業団	出席
布施 昭愛	相模原商工会議所	出席
鎌倉 慎一郎	公益社団法人 相模原法人会	出席
原嶋 伸広	公益社団法人 相模原青年会議所	欠席
岡本 愛子	相模原公共職業安定所	出席
中村 岳彦	相模原市PTA連絡協議会	出席
佐藤 俊巳	相模原市立小学校長会	出席
松尾 英和	相模原市立中学校長会	出席
清水 俊次	相模原市立中学校長会	出席
農上 勝也	学校教育部長	出席
菊地原 央	区政推進課長	出席
沼田 好明	高齢・障害者福祉課長	出席
馬渡 加能	こども・若者政策課長	出席
草薙 格	産業支援・雇用対策課長	出席
千葉 恵子	創業支援・企業誘致推進課長	出席
沖本 健二	教育総務室長	出席
三谷 将史	学校教育課長	出席
奥津 光郎	教育センター所長	出席
松本 隆人	生涯学習課長	出席